

医療保健学部の科目編成

< 医療保健学部 看護学科 >

-2024年度入学生カリキュラム-

1. カリキュラム体系

教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。このうち、基礎教育科目は、社会人、国際人として活躍できる教養と専門科目を学修するための基盤を身に付けることを目的とし、本学部全学科に共通の考え方で構成されています。専門基礎科目は、看護の対象となる「人」の理解と保健医療福祉に関する基礎知識を修得するために、人々の生活と保健医療システム、こころと体の構造と機能、疾患・障害の成り立ちと治療を学修します。専門科目は、看護を実践するための知識と技術を修得することを目的に、基礎・母性・小児・成人・高齢者・精神・在宅・地域の各看護について、臨地実習を含めて学修します。4年次には、看護の発展に寄与できるよう、卒業研究を通して研究的な視点を身につけるとともに、キャリアおよび生涯学習の基盤を形成するために、専門性の高い看護を学修します。

2. 基礎教育科目の編成と履修

基礎教育科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。このうち、必修科目は履修し、選択科目も所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 人文・社会

保健医療福祉分野従事者としての教養を深めるとともに、卒業後専門家・社会人として活躍する上で、また専門教育を学ぶ上で必要な広い視野をもてるように科目を構成しています。

(2) 英語

保健医療福祉分野における外国語のコミュニケーション能力を身につけるため、“「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」”に重点をおいて修得します。

(3) 心身ウェルネス

健康管理に関する知識ならびに各種スポーツの理論と実技を修得します。

(4) コンピュータ

コンピュータリテラシーとして、コンピュータの基本的構成や操作に関する基本技術を修得します。

(5) 人間形成

自立した医療人としての自己実現を目指すために、心身の健康や専門職としての学問認識、医療人としての生涯学習の基盤を理解するとともに、グループ活動を通じてチーム形成能力への動機づけを図ります。また、修学を支援する学内の制度や施設のオリエンテーションも行います。

(6) 自然科学

本学部の専門基礎科目、専門科目を理解するために必要となる自然科学の基礎知識と、基本的な実験手法を講義と実験を通して修得します。

3. 専門基礎科目の編成と履修

専門基礎科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。専門基礎科目で定める必修科目に加え、選択科目を所定単位数以上履修する必要があります。また、保健師国家試験受験資格取得を希望する場合は、指定の科目を履修する必要があります。

(1) 人間社会と医療

看護の対象となる人々を取り巻く環境と、環境が人々の健康に与える影響、保健医療福祉の概念やシステム・制度について学修します。

(2) 人体のメカニズムと疾病・障害

人々の健康の維持、あるいは疾病の予防や治療を考える上で基盤となる人体の構造と機能を学修し、それらを踏まえて諸臓器に発生する疾病の成り立ち、検査ならびに治療に関する基本的な知識を学修します。

4. 専門科目の編成と履修

専門科目は、以下の各分野の科目群から編成しています。専門科目で定める必修科目に加え、学科で指定する科目群から所定の単位数以上を履修する必要があります。また、保健師国家試験受験資格を希望する場合は、指定の科目を履修する必要があります。

(1) 看護の基礎

看護を構成する主要な概念を学修し、「看護とは何か」を考える基盤づくりをします。また、看護行為に必要な基本的援助技術と、それらの技術を実践する際に必要とされる対人関係の基本、看護理論、看護の展開方法、看護倫理に関する基本的な知識を学びます。さらに、看護の対象の特性をふまえた援助方法の概要を、人間の発達段階や看護の場などの観点から学修します。

(2) 看護の方法

対象の特性に応じた援助を実践するために必要な専門的知識と技術を学修します。

(3) 看護の実践

講義・演習で学んだ知識・技術を基に、病院、保健・福祉施設などの臨地において、多職種と連携しながら実践を通して具体的・個別的な援助方法を学修します。臨地実習では、既習の理論を実践に活用するとともに、実践で得られた体験を整理・体系化して学修を深めます。また、看護の対象者や指導者

との関わりから、自分自身を振り返り、自己の学修課題を明確にすることで成長の契機とします。

(4) 看護の統合

1～3年次に学修した知識・技術・態度を統合し、科学的に問題を解決する能力、総合的な判断能力および研究的視点を身につけるための科目で構成しています。

(5) 看護の発展

社会の動向に関心を持ち、また、国際的視野に立ち、人々の健康および看護の専門性を追求する能力を培う基盤づくりのために、専門的かつ時々のトピックを扱う科目の中から、自らの関心によって選択して学修します。

1. カリキュラム体系

教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。このうち、基礎教育科目は、社会人、国際人として活躍できる教養と専門教育に必要な知識を身につけることを目的とし、本学部全学科に共通の考え方で構成されています。

専門基礎科目は臨床工学技士にとって必要な工学の基礎と正常な人体の構造と機能について個体・器官・組織の各レベルで学修するとともに、先端の生命科学等も学修します。専門科目は、臨床工学技士に必要な臨床医学と臨床工学の専門教育と実習を行います。4年次には大学での勉学をまとめるものとしての卒業研究を行います。これは自主的活動と創意工夫の訓練を担当教員の指導のもとに遂行するもので、目的・目標・課題・手法策定などの企画立案に始まり、調査、実験、シミュレーション、製作、検証、論文作成、発表により目的を達成するものです。

臨床工学技士は医療施設において工学と医学双方の知識と技術を身につけた唯一の存在です。自信を持った臨床工学技士として医療界に踏み出すためには、基礎教育科目で学修した内容を繰り返し復習しながら、専門基礎科目や専門科目の学修に臨んでください。

2. 基礎教育科目の編成と履修

基礎教育科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。このうち、必修科目を必ず履修するとともに、学科指定の科目群ごとに、選択科目を所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 人文・社会

医療福祉分野従事者としての教養を深めるとともに、卒業後専門家・社会人として活躍する上で、また専門教育を学ぶ上で必要な広い視野を持つように科目を構成しています。

(2) 英語

医療福祉分野における外国語のコミュニケーション能力を身につけるため、“「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」”に重点をおいて修得します。

(3) 心身ウェルネス

健康管理に関する知識ならびに各種スポーツの理論と実技を修得します。

(4) コンピュータ

コンピュータリテラシーとして、1年次にコンピュータの基本的構成や操作に関する基本技術と、文書作成、データ処理、発表資料作成のソフトウェア使用法を修得します。データサイエンス入門は医療情報の高度化に対応できるように、基本的事項を修得します。

(5) 人間形成

自立した医療人としての自己実現を目指すために、心身の健康やプロとしての学問認識、医療人としての生涯学習の基盤を理解するとともに、グループ活動を通じてチーム形成能力への動機付けを図ります。また、修学を支援する学内の制度や施設のオリエンテーションも行います。

(6) 自然科学

本学部の専門基礎科目、専門科目を理解するために必要となる自然科学の基礎知識と、基本的な実験手法を講義と実験を通して修得します。

3. 専門基礎科目の編成と履修

専門基礎科目は、医学系科目と工学系科目から構成されています。医学系科目は、代表的な「解剖学」、「生理学」、「薬理学」、「病理学」等を学修し、医療人の一員として必要な科目です。一方の工学系科目は、「電気工学」、「電子工学」、「医用機械工学」等を学びます。どちらも、臨床工学技士が医療で活躍するために必須な基礎科目群です。

(1) 基礎医学

人体解剖学、生理学、薬理学、病理学等を学びます。これらは臨床工学技士が操作する医療機器について、医療従事者と共通の知識を身につけ、連携をとるために重要です。人体解剖学、生理学の講義で修得した正常人体の機能についての基礎知識を応用し、実習を通してより深い理解と知識の定着を図ります。また、臨床工学技士業務において、各種疾患の病態を理解したうえで医療機器を操作することはとても重要です。病理学の講義では、病気の原因・経過および形態と機能の変化を明らかにすることによって病気の本態を学びます。

(2) 工学

数学、電気工学、電子工学、電磁気学、医用機械工学、医用情報工学等を学びます。これらは臨床工学技士が保守管理する医療機器について、機器の内部構造、動作原理を理解するために必要な基礎学問です。講義では理論を理解し、実験を通じて実際の現象と理論を対比させる思考方式を身につけます。演習では、種々な資格取得も想定して、工学の要点を総合的に学びます。また医用情報工学は、診療情報や医療機器のデジタル化の進展に的確に対応できるように、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアに関するさらに高度な活用技術を修得します。

講義、実験、演習を通して臨床工学技士に必要な工学的基礎知識を修得します。

4. 専門科目の編成と履修

専門科目は、医用生体工学、医用機器学、生体機能代行技術学、医用安全学、関連臨床医学、臨床実習の6つの領域にわかれます。特に、医用生体工学、医用機器学、生体機能代行技術学、医用機器安全管理学は、臨床工学技士が操作する医用機器や装置のメカニズムや機能、操作方法を理解するための

もので、講義に引き続き演習・実習がバランス良く配置されている領域です。医用機器の操作法も大切ですが、保守点検等の医療機器安全管理の手法を体系的に学修します。関連臨床医学の科目は、臨床工学技士に必要な内科・外科の基礎知識の講義を行います。また臨床実習では、地域の医療施設へ出向き、医療施設の指導者から直接、臨床工学技士の実践技術を学びます。

(1) 臨床工学概論

臨床工学技士を目指す学生にとって必要な専門科目の導入科目として設置します。1年次から高度な医療機器全般への関心を高めることを目標としています。専門科目群の勉学意欲を高め、臨床工学技士へ向かう目標を明確にします。

(2) 生体機能代行技術学及び演習・実習

生体機能代行技術学の講義と実習では、体外循環技術・血液浄化技術・呼吸療法技術の理論を体系的に学ぶため、本科目を2年次に配置します。本科目を履修した後、各種演習へと進み、最終的には実践的な実習へ向かうことで、段階的に理解を深めることができます。これらの科目は臨床工学技士の資格を有する専任教員が実施します。座学により頭で理解するだけでなく、医療現場で使用するのと同じ機器や装置の操作や保守点検を演習及び実習を通して経験します。

(3) 臨床医学系科目

外科系・内科系それぞれの専任教員が責任者として実施します。内科系臨床医学においては、臨床工学技士として必要な内科学の知識はいうまでもなく、ALS（筋萎縮性側索硬化症）患者に対する在宅呼吸療法などの増加も踏まえて、神経内科学の基礎等も触れます。同様に外科系臨床医学においても、外科学の基礎や一般外科・心臓血管外科等の知識に加え、近年臨床工学技士の関与も急増しているInterventional radiology等の低侵襲治療も学修します。さらに先端医療総合講義では、様々な領域の先端医療やバイオテクノロジーの研究・開発・臨床に携わる専門家等の講義を行います。

(4) 臨床工学セミナー及び卒業研究Ⅰ・Ⅱ

履修してきた各科目を総合し、最新の医療に関して学ぶ臨床工学セミナーと、少人数に分かれて教員の研究室に所属し、問題発見と解決方法を学ぶ卒業研究Ⅰ・Ⅱで構成します。卒業研究は、指導教員が提示するテーマもしくは各自設定のテーマに対して、実施計画を立て、実行し、得られた結果から次の計画を立てるという流れを繰り返し、説得力のある成果にまとめます。将来、医療現場で出会う問題に対して解決する方法の基礎を学びます。

1. カリキュラム体系

教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。このうち、基礎教育科目は、社会人、国際人として活躍できる教養と専門基礎を身につけることを目的とし、本学部全学科に共通の考え方で構成されています。専門基礎科目は、本学部全学科の学生にとって必要な正常な人体の構造と機能について、個体・器官・組織の各レベルで学修するとともに、人間発達学、整形外科学、神経内科学等幅広い関連領域を学びます。専門科目は、理学療法士に必要な症候学、臨床医学の教育に始まり、科学的根拠に基づく各専門領域の評価・治療法を修得します。4年次には大学での学修をまとめるものとして卒業研究を経験します。これは自主的活動と創意工夫を担当教員の指導のもとに遂行するもので、目標・目的・課題・手法策定等の研究計画に始まり、調査、実験、シミュレーション、製作、検証、発表、論文作成により目的を達成するものです。

2. 基礎教育科目の編成と履修

基礎教育科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。このうち、必修科目を必ず履修するとともに、学科指定の科目群ごとに、選択科目を所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 人文・社会

医療福祉分野従事者としての教養を深めるとともに、卒業後専門家・社会人として活躍する上で、また専門教育を学ぶ上で必要な広い視野を持つように科目を構成しています。

(2) 英語

医療福祉分野における外国語のコミュニケーション能力を身につけるため、“話す・聞く”に重点をおいて修得します。

(3) 心身ウェルネス

健康管理に関する知識ならびに各種スポーツの理論と実技を修得します。

(4) コンピュータ

コンピュータリテラシーとして、コンピュータの基本的構成や操作に関する基本技術を修得します。

(5) 人間形成

自立した医療人としての自己実現を目指すために、心身の健康やプロとしての学問認識、医療人としての生涯学習の基盤を理解するとともに、グループ活動を通じてチーム形成能力への動機付けを図ります。また、修学を支援する学内の制度や施設のオリエンテーションも行います。

(6) 自然科学

本学部の専門基礎科目、専門科目を理解するために必要となる自然科学の基礎知識と、基本的な実験手法を講義と実験を通して修得します。

3. 専門基礎科目の編成と履修

専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成しています。専門基礎科目で定める必修科目に加え、選択科目を所要の単位数以上、履修する必要があります。

(1) 人体の構造と機能および心身の発達

理学療法の専門教育科目を学ぶ上で基礎となる人体構造の理解を学修する解剖学、人の生命現象を系統的に学ぶ生理学、それらを基盤に筋・骨格・関節系、循環・呼吸・代謝系等を統合して人の動きについて探求するキネシオロジー、および心身の発達に伴って変化する人に対する理解を深める人間発達学を学びます。

(2) 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進

健康、疾病および障害の原因、メカニズム、病態、またその予防と回復過程および治療に関する基礎知識を修得するために必要な科目群です。これは病理・組織学演習、臨床心理学、整形外科学、神経内科学、小児科学、精神医学、老年医学等医療に従事する理学療法士にとって不可欠な科目で構成しています。

(3) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

リハビリテーション医学、リハビリテーション工学、医学概論、公衆衛生学演習、医療経済学、家族社会学、医療情報演習、生命倫理等の科目群から構成されています。グローバルな視点から理学療法を捉え、国民の保健医療福祉の推進に対する責務の理解を目的としています。

4. 専門科目の編成と履修

専門科目は、以下の6つの分野の科目から編成されています。

(1) 基礎理学療法

理学療法の枠組みと理論を理解し、系統的な理学療法を構築できる能力を養います。あわせて理学療法士の職業倫理を高める態度を身につけます。これらは理学療法概論、検査・測定学、先端医療総合講義、リスク管理論、理学療法研究、卒業研究等から成り立っています。検査・測定学では理学療法評価の意義と原理を学びます。理学療法研究と卒業研究では科学的な思考のもとに、根拠のあるエビデンスの構築に寄与できる理学療法の可能性を追求します。また理学療法総合演習や理学療法ゼミを通して理学療法を統合・概説し、学修のステップアップを図ります。

(2) 理学療法評価

理学療法における基本的な評価方法を具体的項目ごとに理解し、あわせて専門領域別に学修を進展させます。知識とともに専門的技術の修得も目的です。検査・測定学および演習、運動器系・神経系・内部障害系理学療法評価学から構成されています。

(3) 理学療法治療

これまでに学んだ理学療法評価学に基づき、種々の障害に対する理学療法に必要な専門的知識と治療技術を修得します。3・4年次の臨床実習で要求される専門領域ごとの講義と実習が一体となった授業形態で設置しており、複数の教員が携わって運動療法を始め物理療法、義肢装具学、マニュアルセラピーの他運動器系・神経系・内部障害系・老年期・発達障害系と、多岐にわたる科目を学修指導します。

(4) 地域理学療法

この科目分野には日常生活活動論、地域理学療法学を始め生活環境福祉学等があります。これらは理学療法の対象者となる方々が地域あるいは在宅における生活を支援するために必要な知識や技術の修得を目的としています。QOLの概念、分類方法を理解し、日常生活活動との関係から障害構造を多面的に学修します。

(5) 理学療法管理学

理学療法が実践される場面では、近年の社会保障関連制度、社会のニーズなどの変化への対応が求められています。生涯教育までみすえた理学療法教育、臨床での職場管理やマネジメント、職業倫理、治療および自己のマネジメントを学修することが必要です。そのため、医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養うように理学療法マネジメント論において学修します。

(6) 臨床実習

臨床実習では、学内で学んだ知識や技術を臨床実習施設にて、指導者の下で実践する機会があります。臨床実習Ⅲ（総合）は、検査測定結果を理学療法評価として総合的に捉え、学修します。臨床実習Ⅳ（インターン）は最終学年での臨床実習であり、卒業後に理学療法業務ができる最低限の理学療法知識・技術を統合できることが求められます。各実習終了後にはセミナー形式の発表会を開催し、実習での経験と成果を報告・討論します。実習は国立病院機構病院や大学病院等の高度先進医療を実践している施設も含まれ、充実した実習が経験できるよう配慮します。

1. カリキュラム体系

教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。このうち、基礎教育科目は、社会人、国際人として活躍できる教養と専門基礎を身につけることを目的とし、本学部全学科に共通の考え方で構成されています。専門基礎科目は、本学部全学科の学生にとって必要な正常な人体の構造と機能について、個体・器官・組織の各レベルで学修するとともに、先端のバイオ・ゲノムの知識も応用生物学部などの教育資源を活用して教育します。専門科目は、従来の身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害という障害領域別ではなく、生活する人間としての対象者の機能（精神機能、身体機能、認知機能）と活動・参加に焦点を当てて、作業療法の考え方（作業療法原論）と実践過程（作業療法実践論など）を学修し、実習・演習を行います。また、4年次には大学での勉学の総まとめとして卒業研究を行います。これは自主的活動と創意工夫の手法を担当教員の指導のもとに遂行するもので、目的・目標・課題・手法策定などの企画立案に始まり、調査、実験、シミュレーション、製作、検証、論文作成、発表により目的を達成します。

2. 基礎教育科目の編成と履修

基礎教育科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。このうち、必修科目を必ず履修するとともに、学科指定の科目群ごとに、選択科目を所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 人文・社会

医療福祉分野従事者としての教養を深め、卒業後専門家・社会人として活躍したり、専門教育を学ぶために必要な広い視野を持てるように科目を構成しています。

(2) 英語

医療福祉分野における外国語のコミュニケーション能力を身につけるため、“話す・聞く”に重点をおいて修得します。

(3) 心身ウェルネス

健康管理に関する知識ならびに各種スポーツの理論と実技を修得します。

(4) コンピュータ

コンピュータリテラシーとして、コンピュータの基本的構成や操作に関する基本技術を修得します。

(5) 人間形成

自立した医療人としての自己実現を目指すために、心身の健康やプロとしての学問認識、医療人としての生涯学習の基盤を理解するとともに、グループ活動を通じてチーム形成能力への動機付けを図ります。また、修学を支援する学内の制度や施設のオリエンテーションも行います。

(6) 自然科学

本学部の専門基礎科目、専門科目を理解するために必要となる自然科学の基礎知識と、基本的な実験手法を講義と実験を通して修得します。

3. 専門基礎科目の編成と履修

専門基礎科目は、以下の3分野の科目から編成しています。専門基礎教育として理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則で以下の分野から30単位以上を取得することを定めています。本学科では、必修科目43単位に加え、選択科目を2単位以上履修する必要があります。

(1) 人体の構造と機能および心身の発達

作業療法の専門科目を学修するための基礎として、人体の構造を探求する解剖学や人の生命現象を系統的に探求する生理学、それらが実際の人間の行動や生活の中でどのように機能しているのかを探求する運動学を学びます。それと同時に人生の各段階において運動・知的・心理的・社会的がどのように発達していくのかを探求する人間発達学についても学びます。

(2) 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進

リハビリテーションに従事していく上での基礎となる健康、疾病および障害について、その原因、メカニズム、病態、またその予防と回復過程および治療を学びます。これは病理・組織学演習、臨床薬理学、臨床微生物・免疫学、整形外科学、神経内科学、小児科学、精神医学、画像評価学、老年医学などの科目で構成されています。

(3) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

作業療法士として国民の保健医療福祉の推進に貢献するために必要な、作業療法士の役割、地域における関係機関との連携の在り方、等について理解することを目的とします。これはリハビリテーション医学、リハビリテーション工学、医学概論、公衆衛生学、家族社会学、生命倫理、医療経済学、医療情報演習等の科目群から構成しています。

これらの専門基礎科目は、専門科目を理解するための基礎となる非常に重要な科目です。また、国家試験で多く出題される領域です。専門科目の学修前に教員に質問等を行い、積極的な理解を心がけることが大切です。

4. 専門科目の編成と履修

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則では、次の5分類の科目群（基礎作業療法学、作業療法評価学、作業治療学、地域作業療法学、臨床実習）からあわせて57単位を取得することを定めています。本学科では、必修科目63単位に加え、選択科目を3単位以上履修する必要があります。これは、指定規則を基本としながら、学修効果や地域の現場のニーズを踏まえて科目設定を行っています。

(1) 基礎作業療法学

作業療法の基礎的枠組み、作業の概念と実施方法、作業療法の展開方法、保健・医療・福祉における作業療法の役割と発展の理解を目指します。

(2) 作業療法管理学

作業療法士として効果的・効率的に自分自身及び組織をどのように生かしていくかというマネジメントの基礎について、一般常識から目標管理、社会保険制度、世界の潮流など幅広い分野について学びます。

(3) 作業療法評価学、作業治療学

対象者を生活する人間としてとらえ、障害ではなく機能（精神機能、身体機能、認知機能）と活動・参加に焦点を当てて、作業療法の考え方（作業療法原論）と実践過程（身体機能作業療法学、認知機能作業療法学、精神機能作業療法学、作業療法実践論）を学修します。また、種々の演習（身体機能作業療法学演習、精神機能作業療法学演習等）を通して、授業で学んだ知識を応用し、自分で考えて行動できる能力や技術を身につけます。

(4) 地域作業療法学

障害領域、病期、個人の生活環境等様々な要因を考慮した地域生活での作業療法の関わりを学修します。

(5) 臨床実習

実際の作業療法現場で臨床教育者の指導・監督の下で医療に関わる個人としての職業倫理や行動、作業療法士としての評価・作業療法計画立案・作業療法の実施、記録・報告、安全管理を含めた管理運営等を学修します。

できるだけ早い時期からユーザーに接すること（early exposure）は、より具体的かつ効率的に学修成果をあげられるのは、いうまでもないことです。最終学年時に、卒業後、自立した作業療法士として実践できる基礎を身につけることができるよう、長期間〈約 7 週間程度〉の連続した臨床実習を行うとともに、1年次から、いろいろな形で、作業療法やリハビリテーションを必要とする方々と接する機会を提供します。

< 医療保健学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 >

ー2024年度入学生カリキュラムー

1. カリキュラム体系

教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。このうち、基礎教育科目は、社会人、国際人として活躍できる教養と専門基礎を身につけることを目的とし、本学部全学科に共通の考え方で構成されています。専門基礎科目は、本学部全学科の学生にとって必要な正常な人体の構造と機能について、個体・器官・組織の各レベルで学修するとともに、人間発達学、整形外科学、神経内科学等幅広い関連領域を学びます。専門科目は、理学療法士に必要な症候学、臨床医学の教育に始まり、科学的根拠に基づく各専門領域の評価・治療学を修得します。4年次には大学での学修をまとめるものとして卒業研究を行います。これは担当教員の指導のもとに自主的な活動と創意工夫を実践するものであり、解決すべき疑問に基づき研究目的を明確にし、研究計画を立案したうえで過去の研究をレビューし、調査や実験研究を実践してその成果をまとめる一連の学術的行為です。

2. 基礎教育科目の編成と履修

基礎教育科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。このうち、必修科目を必ず履修するとともに、学科・専攻指定の科目群ごとに、選択科目を所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 人文・社会

医療福祉分野従事者としての教養を深め、卒業後専門家・社会人として活躍したり、専門教育を学ぶために必要な広い視野を持つように科目を構成しています。

(2) 英語

医療福祉分野における外国語のコミュニケーション能力を身につけるため、“「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」”に重点をおいて修得します。

(3) 心身ウェルネス

健康管理に関する知識ならびに各種スポーツの理論と実技を修得します。

(4) コンピュータ

コンピュータリテラシーとして、コンピュータの基本的構成や操作に関する基本技術を修得します。

(5) 人間形成

自立した医療人としての自己実現を目指すために、心身の健康やプロとしての学問認識、医療人としての生涯学習の基盤を理解するとともに、グループ活動を通じてチーム形成能力への動機付けを図ります。また、修学を支援する学内の制度や施設のオリエンテーションも行います。

(6) 自然科学

本学部の専門基礎科目、専門科目を理解するために必要となる自然科学の基礎知識を修得します。

3. 専門基礎科目の編成と履修

専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成しています。専門基礎科目で定める必修科目すべてを履修する必要があります。なお、教養科目の中の選択科目を履修することができます。

(1) 人体の構造と機能及び心身の発達

理学療法の専門科目を学ぶ上で基礎となる人体構造の理解を学修する解剖学、人の生命現象を系統的に学ぶ生理学、それらを基盤に筋・骨格・関節系、循環・呼吸・代謝系等を統合して人の動きについて探求するキネシオロジー、および心身の発達に伴って変化する人に対する理解を深める人間発達学を学びます。

(2) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

健康、疾病および障害の原因、メカニズム、病態、またその予防と回復過程および治療に関する基礎知識を修得するために必要な科目群です。これは病理・組織学演習、臨床心理学、整形外科学、神経内科学、小児科学、精神医学、老年医学等医療に従事する理学療法士にとって不可欠な科目で構成しています。

(3) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

リハビリテーション医学、リハビリテーション工学、医学概論、公衆衛生学演習、医療経済学、家族社会学、生命倫理等の科目群から構成されています。グローバルな視点から理学療法を捉え、国民の保健医療福祉の推進に対する責務の理解を目的としています。

4. 専門科目の編成と履修

専門科目は、以下の6つの分野の科目から編成されています。

(1) 基礎理学療法学

理学療法の枠組みと理論を理解し、系統的な理学療法を構築できる能力を養います。あわせて理学療法士の職業倫理を高める態度を身につけます。これらは理学療法学概論、先端医療総合講義、リスク管理論、理学療法研究、理学療法卒業研究等から成り立っています。理学療法研究と理学療法卒業研究では科学的な思考のもとに、根拠のあるエビデンスの構築に寄与できる理学療法の可能性を追求します。また理学療法総合演習や理学療法ゼミを通して理学療法を統合・概説し、学修のステップアップを図ります。

(2) 理学療法評価学

理学療法における基本的な評価方法を具体的項目ごとに理解し、あわせて専門領域別に学修を進展させます。知識とともに専門的技術の修得も目的とします。検査・測定学および演習、運動器系・神経系・内部障害系理学療法評価学から構成されています。

(3) 理学療法治療学

これまでに学んだ理学療法評価学に基づき、種々の障害に対する理学療法に必要な専門的知識と治療技術を修得します。3・4年次の臨床実習で要求される専門領域ごとの講義と実習が一体となった授業形態を設置しており、複数の教員が携わって運動療法を始め物理療法、義肢装具学演習・実習、マニュアルセラピーの他、運動器系・神経系・内部障害系・老年期・発達障害系と、多岐にわたる科目を学修します。

(4) 地域理学療法学

この科目分野には日常生活活動論、地域理学療法学をはじめ生活環境福祉学等があります。これらは理学療法の対象者となる方々の地域あるいは在宅における生活を支援するために必要な知識や技術の修得を目的としています。QOLの概念、分類方法を理解し、日常生活活動との関係から障害構造を多面的に学修します。

(5) 理学療法管理学

理学療法が実践される場面では、近年の社会保障関連制度、社会のニーズなどの変化への対応が求められています。生涯教育まで見すえた理学療法教育、臨床での職場管理やマネジメント、職業倫理、治療および自己のマネジメントを学修することが必要です。そのため、医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高めることを目的に理学療法マネジメント論において学修します。

(6) 理学療法臨床実習

理学療法臨床実習では、学内で学んだ知識や技術を臨床実習施設において、指導者の下で実践する機会です。理学療法臨床実習Ⅲ（総合）は、検査測定結果を理学療法評価として総合的に捉え、学修します。理学療法臨床実習Ⅳ（インターン）は最終学年での臨床実習であり、卒業後に理学療法業務ができる最低限の理学療法知識・技術を統合できることが求められます。各実習終了後にはセミナー形式の発表会を開催し、実習での経験と成果を報告・討論します。実習の場は国立病院機構病院や大学病院等の高度先進医療を実践している施設も含まれ、充実した実習が経験できるよう配慮します。

＜ 医療保健学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 ＞

－2024 年度入学生カリキュラム－

1. カリキュラム体系

教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。このうち、基礎教育科目は、社会人、国際人として活躍できる教養と専門基礎を身につけることを目的とし、本学部全学科に共通の考え方で構成されています。専門基礎科目は、本学部全学科の学生にとって必要な正常な人体の構造と機能について、個体・器官・組織の各レベルで学修するとともに、先端のバイオ・ゲノムの知識も応用生物学部などの教育資源を活用して教育します。専門科目は、従来の身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害という障害領域別ではなく、生活する人間としての対象者の機能（精神機能、身体機能、認知機能）と活動・参加に焦点を当てて、作業療法の考え方（作業療法原論）と実践過程（作業療法実践論など）を学修し、実習・演習を行います。また、3-4年次には大学での勉学の総まとめとして卒業研究を行います。これは自主的活動と創意工夫の手法を担当教員の指導のもとに遂行するもので、目的・目標・課題・手法策定などの企画立案に始まり、調査、実験、シミュレーション、製作、検証、論文作成、発表により目的を達成します。

2. 基礎教育科目の編成と履修

基礎教育科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。このうち、必修科目を必ず履修するとともに、学科・専攻指定の科目群ごとに、選択科目を所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 人文・社会

医療福祉分野従事者としての教養を深め、卒業後専門家・社会人として活躍したり、専門教育を学ぶために必要な広い視野を持てるように科目を構成しています。

(2) 英語

医療福祉分野における外国語のコミュニケーション能力を身につけるため、“「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」”に重点をおいて修得します。

(3) 心身ウェルネス

健康管理に関する知識ならびに各種スポーツの理論と実技を修得します。

(4) コンピュータ

コンピュータリテラシーとして、コンピュータの基本的構成や操作に関する基本技術を修得します。

(5) 人間形成

自立した医療人としての自己実現を目指すために、心身の健康やプロとしての学問認識、医療人としての生涯学習の基盤を理解するとともに、グループ活動を通じてチーム形成能力への動機付けを図ります。

また、修学を支援する学内の制度や施設のオリエンテーションも行います。

(6) 自然科学

本学部の専門基礎科目、専門科目を理解するために必要となる自然科学の基礎知識を修得します。

3. 専門基礎科目の編成と履修

専門基礎科目は、以下の3分野の科目から編成しています。専門基礎教育として理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則で以下の分野から30単位以上を取得することを定めています。本学科・専攻では、必修科目43単位に加え、選択科目を2単位以上履修する必要があります。

(1) 人体の構造と機能及び心身の発達

作業療法の専門科目を学修するための基礎として、人体の構造を探究する解剖学や人の生命現象を系統的に探究する生理学、それらが実際の人間の行動や生活の中でどのように機能しているのかを探究する運動学を学びます。それと同時に人生の各段階において運動・知的・心理的・社会的がどのように発達していくのかを探究する人間発達学についても学びます。

(2) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

リハビリテーションに従事していく上での基礎となる健康、疾病および障害について、その原因、メカニズム、病態、またその予防と回復過程および治療を学びます。これは臨床薬理学、整形外科学、神経内科学、小児科学、精神医学、画像評価学、老年医学などの科目で構成されています。

(3) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

作業療法士として国民の保健医療福祉の推進に貢献するために必要な、作業療法士の役割、地域における関係機関との連携の在り方、等について理解することを目的とします。これはリハビリテーション医学、リハビリテーション工学、医学概論、公衆衛生学、家族社会学、生命倫理、医療経済学、ケアマネジメント等の科目群から構成しています。

これらの専門基礎科目は、専門科目を理解するための基礎となる非常に重要な科目です。また、国家試験で多く出題される領域です。専門科目の学修前に教員に質問等を行い、積極的な理解を心がけることが大切です。

4. 専門科目の編成と履修

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則では、次の5分類の科目群（基礎作業療法学、作業療法評価学、作業治療学、地域作業療法学、臨床実習）からあわせて57単位を取得することを定めています。本学科・専攻では、必修科目63単位に加え、選択科目を3単位以上履修する必要があります。これは、指定規則を基本としながら、学修効果や地域の現場のニーズを踏まえて科目設定を行っています。

(1) 基礎作業療法学

作業療法の基礎的枠組み、作業の概念と実施方法、作業療法の展開方法、保健・医療・福祉における作業療法の役割と発展の理解を目指します。

(2) 作業療法管理学

作業療法士として効果的・効率的に自分自身及び組織をどのように生かしていくかというマネジメントの基礎について、一般常識から目標管理、社会保険制度、世界の潮流など幅広い分野について学びます。

(3) 作業療法評価学、作業療法治療学

対象者を生活する人間としてとらえ、障害ではなく機能（精神機能、身体機能、認知機能）と活動・参加に焦点を当てて、作業療法の考え方（作業療法原論）と実践過程（身体機能作業療法学、認知機能作業療法学、精神機能作業療法学、作業療法実践論）を学修します。また、種々の演習（身体機能作業療法学演習、精神機能作業療法学演習等）を通して、授業で学んだ知識を応用し、自分で考えて行動できる能力や技術を身につけます。

(4) 地域作業療法学

障害領域、病期、個人の生活環境等様々な要因を考慮した地域生活での作業療法の関わりを学修します。

(5) 臨床実習

実際の作業療法現場で臨床教育者の指導・監督の下で医療に関わる個人としての職業倫理や行動、作業療法士としての評価・作業療法計画立案・作業療法の実施、記録・報告、安全管理を含めた管理運営等を学修します。

できるだけ早い時期からユーザーに接すること（early exposure）は、より具体的かつ効率的に学修成果をあげられるのは、いうまでもないことです。最終学年時に、卒業後、自立した作業療法士として実践できる基礎を身につけることができるよう、長期間〈約 7 週間程度〉の連続した臨床実習を行うとともに、1年次から、いろいろな形で、作業療法やリハビリテーションを必要とする方々と接する機会を提供します。

< 医療保健学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 >

-2024年度入学生カリキュラム-

1. カリキュラム体系

教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。このうち、基礎教育科目は、社会人、国際人として活躍できる教養と専門基礎を身につけることを目的とし、本学部全学科に共通の考え方で構成されています。専門基礎科目は、本学部全学科の学生にとって必要な正常な人体の構造と機能について、個体・器官・組織の各レベルでの学修を基盤とし、医学、言語学、音声学、音響学、心理学など言語聴覚障害および、言語聴覚臨床に関連する基礎科目によって構成されています。専門科目は、言語聴覚士の支援対象となる失語・高次脳機能障害学、言語発達障害学、発声発語・嚥下障害学、聴覚障害学の4領域の基礎的・臨床的医学知識を学修し、領域ごとの言語病理学的基礎知識、発展的知識、評価・診断および、言語治療へと学修を進めます。専門的技能、臨床態度については、学内演習、学内実習を経た後、3、4年次に、学外の臨床実習施設において臨床実習を行います。

2. 基礎教育科目の編成と履修

基礎教育科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。このうち、必修科目を必ず履修するとともに、学科・専攻指定の科目群ごとに、選択科目を所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 人文・社会

医療福祉分野従事者としての教養を深め、卒業後専門家・社会人として活躍したり、専門教育を学ぶために必要な広い視野を持てるように科目を構成しています。

(2) 英語

医療福祉分野における外国語のコミュニケーション能力を身につけるため、“「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」”に重点をおいて修得します。

(3) 心身ウェルネス

健康管理に関する知識ならびに各種スポーツの理論と実技を修得します。

(4) コンピュータ

コンピュータリテラシーとして、コンピュータの基本的構成や操作に関する基本技術を修得します。

(5) 人間形成

自立した医療人としての自己実現を目指すために、心身の健康やプロとしての学問認識、医療人としての生涯学習の基盤を理解するとともに、グループ活動を通じてチーム形成能力への動機付けを図ります。また、修学を支援する学内の制度や施設のオリエンテーションも行います。

(6) 自然科学

本学部の専門基礎科目、専門科目を理解するために必要となる自然科学の基礎知識を修得します。

3. 専門基礎科目の編成と履修

専門基礎科目は、以下の10分野の科目から編成しています。専門基礎教育として言語聴覚士学校養成所指定規則で以下の分野から29単位以上を取得することを定めています。本学科・専攻では、必修科目41単位に加え、専門基礎科目共通または専門科目発展から選択科目を合計12単位以上履修する必要があります。

(1) 基礎医学

医療の社会的役割を多面的に理解し、医療職に対する社会の期待を認識します。また、解剖学、生理学、病理学を通して、人体の構造と機能、細胞と組織、病気の本態を学修します。

(2) 臨床医学

臨床医学科目では、内科、神経内科、小児科、リハビリテーション科、精神科に加え、より言語聴覚障害・摂食嚥下障害の発症原因となりやすい耳鼻咽喉科、形成外科における疾患、診断、治療を学修します。

(3) 臨床歯科医学

歯、口腔、顎、顔面の構造、機能、疾患を理解し、構音・摂食・咀嚼の障害に対する歯科医学的治療や口腔衛生や口腔疾患の予防などについて学修します。

(4) 音声・言語・聴覚医学

言語聴覚機能、摂食嚥下機能を支える神経の基本構造と機能、神経疾患の病態を学修します。また、呼吸器・構音器官、聴覚器の基本構造と機能を理解し、病態、診断、治療について学修します。

(5) 心理学

言語聴覚障害、言語聴覚臨床を理解するため、知覚、学習、認知、記憶など、人間理解に欠かせない知識や心理的問題への支援法を学修します。

(6) 言語学

言語とは何か、言語の基本的な性質と意味における音声の役割を理解し、形態論、統語論、意味論からことばをとらえ、日本語の特徴を学修します。

(7) 音声学

音の構造、音声の基本的な性質を理解し、発声発語器官と構音との関係や、国際音声記号、日本語の音声特徴などを学修します。

(8) 音響学

音の物理的側面と基本概念、音声知覚に関する基本的知識を修得し、音声生成の音響理論や日本語音の音響特性が説明できるようになることを目指します。

(9) 言語発達学

言語発達の基本概念を理解し、前言語期、単語期、幼児期、学童期などの各期の言語発達の概要を学修します。

(10) 社会福祉・教育

社会福祉の理念、構成する法規、および社会保障制度の基本概念を理解し、障害者に関する施策を学修します。また、リハビリテーションの理念と概念、障害の概念を理解し、リハビリテーションの分類、国際生活機能分類などを学修します。

4. 専門科目の編成と履修

言語聴覚士学校養成所指定規則では、以下の6分類の科目群からあわせて44単位を取得することを定めています。本学科・専攻では、必修科目51単位に加え、専門基礎科目共通または専門科目発展から選択科目を合計12単位以上履修する必要があります。これは、指定規則を基本としながら、学修効果や地域の現場のニーズを踏まえて科目設定を行っています。

(1) 言語聴覚障害学総論

言語聴覚障害学の歴史、言語聴覚障害の種類・特徴・発生機序、言語聴覚療法の概念を理解し、言語聴覚臨床の基本的な考え方を学修します。また、言語聴覚士の職務内容、職業倫理について学びます。

(2) 失語・高次脳機能障害学

失語症、高機能機能障害の基本概念と知識を修得し、失語症、高機能機能障害に対する言語聴覚療法の評価・診断および、言語治療に関する知識・技能・態度を修得します。

(3) 言語発達障害学

言語発達障害、その関連障害の基本概念と知識を修得し、言語発達障害、その関連障害に対する言語聴覚療法の評価・診断および、言語治療に関する知識・技能・態度を修得します。

(4) 発声発語・嚥下障害学

発声発語障害、摂食嚥下障害、その関連障害の基本概念と知識を修得し、発声発語障害、摂食嚥下障害、その関連障害に対する言語聴覚療法の評価・診断および、言語治療に関する知識・技能・態度を修得します。

(5) 聴覚障害学

聴覚障害、その関連障害の基本概念と知識を修得し、聴覚障害、その関連障害に対する言語聴覚療

法の評価・診断および、言語治療に関する知識・技能・態度を修得します。

(6) 臨床実習

3年次後期、4年次前期には、学外の臨床実習施設において、合計14週間の臨床実習を行います。事前準備としての学内演習、学内実習では、これまでに学んだ知識の再確認に加え、専門的スキル、臨床態度の習得についても振り返りを重ねます。

1. カリキュラム体系

教育課程は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目から構成されます。このうち、基礎教育科目は、社会人、国際人として活躍できる教養と専門基礎を学ぶための必要な知識を身につけることを目的とし、本学部全学科に共通の考え方で構成されています。専門基礎科目では臨床検査技師にとって必要な健全な人体の構造と機能について、個体・器官・組織の各レベルで学修するとともに、社会医学、医用工学など幅広い関連領域を学びます。専門科目では、臨床検査技師に必要な臨床検査医学、検体検査学、生理検査学、臨地実習等の専門教育と実習を行います。また、4年次には大学での学修をまとめるものとして卒業研究を行います。これは自主的活動と創意工夫の訓練を担当教員の指導のもとに遂行するもので、目標・目的・課題・手法策定等の企画立案に始まり、調査、実験、シミュレーション、製作、検証、発表、論文作成により学修目的を達成します。

2. 基礎教育科目の編成と履修

基礎教育科目は、以下の各分野の科目群から編成されています。このうち、必修科目を必ず履修するとともに、選択科目を所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 人文・社会

医療福祉分野従事者としての教養を深めるとともに、卒業後専門家・社会人として活躍する上で、また専門教育を学ぶ上で必要な広い視野を持つように科目を構成しています。

(2) 英語

医療福祉分野における外国語のコミュニケーション能力を身につけるため、“「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」”に重点をおいて修得します。

(3) 心身ウェルネス

健康管理に関する知識ならびに各種スポーツの理論と実技を修得します。

(4) コンピュータ

コンピュータリテラシーとして、コンピュータの基本的構成や操作に関する基本技術を修得します。

(5) 人間形成

自立した医療人としての自己実現を目指すために、心身の健康やプロとしての学問認識、医療人としての生涯学習の基盤を理解するとともに、グループ活動を通じてチーム形成能力への動機付けを図ります。また、修学を支援する学内の制度や施設のオリエンテーションも行います。

(6) 自然科学

本学部の専門基礎科目、専門科目を理解するために必要となる自然科学の基礎知識と、基本的な実験手法を講義と実験を通して修得します。

3. 専門基礎科目の編成と履修

専門基礎科目は、以下の各分野の科目から編成されています。専門基礎科目で定める必修科目を所要の単位数を履修する必要があります。

(1) 基礎医学系

解剖学、生理学、生化学、病理学等を学びます。これらは臨床検査学の基盤となる基礎医学に関する知識を身につけるもので、臨床検査の医学的背景を理解する上で重要であり、講義と実習によって修得します。

(2) 社会医学系

公衆衛生学、保健医療福祉総論等を学びます。これらは社会医学や臨床現場との関わりの中で臨床検査の意義や有意性を理解する上で重要です。

(3) 医用工学系

現代の医療を支えている各種の検査・診断・治療機器は、理工学と医学の双方に関わり、この境界領域にある医用工学を学びます。これらの臨床検査学の基盤となる知識を身につけ、医療技術を理解することは重要であり、講義と実習によって修得します。

4. 専門科目の編成と履修

専門科目は、以下の科目群から編成されています。本学科では、必修科目に加え、選択科目を所要の単位数以上履修する必要があります。

(1) 総合検査学系

臨床医学総論、臨床病理学、病態解析学等、臨床検査の医学・医療における意義・役割・位置付けを学び、臨床検査成績を判読する知識・能力を身につけます。また、検査管理総論等で、臨床検査の信頼性を保証する手段の体系や、検査結果解釈の尺度となる基準範囲・病態識別値、臨床的有用性評価のための知識を修得します。

(2) 形態検査学・分析検査学系

病理検査学、血液検査学、臨床化学検査学、一般検査学・寄生虫学、微生物学、免疫検査学、遺伝子検査学、輸血・移植検査学等広範な臨床検査学の各分野を学び、各種疾患患者から検体を採取し分析を行い、疾病の診断・治療・予後判定に有用となる検査成績を提供し、活用するための知識・技術を身に

つけます。

(3) 機能調節・制御検査学系

生理検査学についての各分野段階において、心電図・脳波・呼吸機能検査・超音波診断検査・その他の画像検査等について学びます。そして、各種疾病の診断・治療・予後判定に有用となる、生体から直接得られる生理機能検査結果を得て活用するための知識・技術を修得します。

(4) 臨地実習

3年次後期からの臨地実習では、専門基礎科目、専門科目の講義、実習で履修した内容が、医療関連機関における実際の臨床の現場でどのように実践されているのかを学びます。臨床検査をリードする医療機関において、正確な検査結果が迅速に得られるような知識・技術・姿勢を肌で感じるとともに、臨床検査技師としての社会的使命を体感します。